

ドローン活用し林業の課題解消へ

バイオマスパワーテクノロジー

獣害対策資材輸送の大規模実証

木質バイオマス発電 オオマス・パワーテクノロジー
事業やバイオマスエネルギーのコンサルティ
ング等を手掛けるバイオマス・パワーテクノロジー
北角強社長、☎059
8・67・2561



ドローン輸送実験の様子

で、ドローンを活用した「新しい林業」の構築を目指す。

今回の実験で使用したのは、民生用ドローンの世界市場で約70%を誇るDJI社の最新鋭物流ドローン「DJI FlyCart 30」。最大積載量40kgという高性能を生かし、急勾配の山林で1日当たり50回、実験期間中に300回を超え、大規模な荷上げを行い、全国的に他に類を見ない規模の実証となった。

紀伊半島の山々では、鹿による深刻な食害被害が続出。植林しても育たないという悪循環に陥り、防獣対策資材の設置が不可欠となっている。支柱や網など重量物の人力輸送は困難を極め、特に急斜面での作業は危険度が高く、多くの時間と多額のコストを強いられていた。

この難題に挑むべく、ドローン事業者と林業事業者が連携し実

証した今回の実証で、同社は「輸送時間、機体の安定性、発着陸の安全性などのデータ収集に成功した」としている。今後はこの実験で得られたデータを詳細に分析することで新たな手法や技術開発へとつなげ、低迷する林業の再生に挑戦していく方針だ。

「防獣対策資材を山間部に持ち込む際、一度に人力で運べるのは15kg程度。そうした労力や、運搬中の転落・滑落といった労働災害の懸念を解消できることから、ドローンを活用した荷上げに寄せられる期待は高い。同社は「ドローンがもたらす可能性は無限大だ。安全性向上、コスト削減、そして働き方改革。山の守り人たちの挑戦が始まった」とした。